

ご挨拶

創設 130 周年を迎えて

栃木県農業総合研究センター（旧栃木県農業試験場）は、令和 7（2025）年に創設 130 周年という大きな節目を迎えました。明治 28（1895）年に栃木県立農事試験場として創設されて以来、農業振興に不可欠な技術革新の拠点として、時代の変化に対応しながら、本県の特徴や創意工夫を生かした研究開発を続けてまいりました。

この間の歩みは、本県の豊かな自然環境と皆様の支えを土台に、先人たちのたゆまぬ努力と情熱によって築かれてきました。これまでに多くの新品種・新技術を開発し、地域農業の発展に寄与してきたことは、私たちの誇りであり、未来に続く研究開発の大きな原動力となっています。

近年、農業の担い手不足をはじめ、地球温暖化の進行や新たな病害虫の発生、消費者ニーズの多様化など、農業を取り巻く環境は急速に変化しています。こうした中、研究開発分野においては、現場の課題解決を最優先に、一歩先を見据えた取組が求められており、時代の変化とともに県の試験研究機関としての役割も転換期を迎えていると感じています。

変化の激しい時代だからこそ、研究機関としての真価が問われます。当センターでは、これまで培ってきた技術力にさらに磨きをかけ、今後も“現場の課題を解決する研究機関”として、実用性と先進性の双方の視点を持って新たな技術の創出に挑んでまいります。

このたびの記念誌刊行は、過去の記録や研究成果を通じて、当センターの歩みと今後の展望を共有できる大変貴重な機会となりました。本誌が、農業に携わる多くの方々にとって、過去を振り返り、未来を描く手がかりとなることを願っています。

最後に、これまで当センターを支えていただいた皆様に深く感謝するとともに、今後とも変わらぬ御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

栃木県農業総合研究センター 所長 柴田 和幸

